

お気楽  
精神科医の

頑張りすぎない人生のスヌメ 第二十五話

# 大人になりきれない シンドレラ

福島淳 イラスト 福島マダリータ



分裂と聞くと、まず誰しもが精神分裂病を連想すると思う。しかしそれは病気の本質を的確に表現した病名とは言いがたい。少し前のこの病気の美態と名称との違和感をなくすべく新しく統合失調症となった。これは精神心が分裂splittingするとはどうゆうことなのか。

分裂とは心の防衛機制自分の精神的安定を保つための無意識に行っていることだ。自分や相手対象に関して、欲求充足的な側面と欲求不満足な側面とを、別々の存在として認識することである。その起源は1歳前後の乳児において初めて見られる。一人の母親をおっぱいを与えてくれあやしくくれるよい母親 goodと欲し時にタイミンがよくおっぱいを与えてくれないあるいは怒ったりする悪い母親 badとして別個の存在と思いつつも一つのことから始まる。

例えばミルクは自分の要求を満たしてくれるよい対象として取り入れ、他方では便や尿や吐物を体から出すように悪い自己を自分の中から排出する。こうしてよい自己は強化され、悪いものは対象他者の中に蓄積されていく。

平たく言えば、自分はいじも善人で、自分を傷つける他者は悪人、という図式が出来上がるわけだ。ただし現実ではないので妄想的な不安感が増大することになる。そして、自分の悪い部分や都合の悪い問題を、自分のことだと認めたくないために、悪役他者を押し付けるのだ。

しかし通常、健康な精神発達過程ではこの認めたくない自分の感情を受け入れることにより、分裂はひじこに統合されていく。そ

のための欲求を満たしてくれる面も欲求不満を起させる面も受け入れることができ、い所も悪い所も含めて他人と人間関係がもてるようになる。

だがこの能力を持ち得なかった場合はどうなるか。

成長している子供は常に幼児期に受けた温かい保護を基盤に、よい母親から愛され大事にされているという空想を作り上げる。母親の強い依存性と、自己の形成と成長のためには、母親の愛情と彼女から認められることが絶対不可欠なのだ。それゆえ母親から愛情を得られなくなってしまうことつまり空想の消滅、子供の怒りと欲求不満は非常に大きくなる。

goodとbadに分裂させるという図式は愛されている善良な自分と、悪役を他人に押し付けた結果、空想ゆえに崩れるかも知れない不安がきまとう。あくまで自分の空想は正しいと思いたいのだ。

この恐れを何とかするために、幼児は母親という全体的な対象をgoodとbadに分裂させたままにして、よい母親(good)に大事にされて愛情を受けるといって空想に安住しようとするわけだ。

つまり、大事にしてくれている母親から見捨てられること、不安が欲求不満を引き起して、自分を見捨てる悪い母親像を他人へと同化させているのだ。欲求不満から来る自分の怒りを、他人が自分のことを怒っていると感じてしまうのである。

こんな人は愛されなければ価値がないと思ってしまうため、好かれることに固執する傾向がある。自分にとって都合の悪い相手や好

意的でない相手はbad悪いものはいいとして批判の対象となる。

悪い母親像とよい母親像は決して一つのまとまった対象として統合されることがない。この原始的な防衛機制が人生を通じて彼女との人間関係のとり方となる。

こういふ人は、他人が自分の欲求を満たしてくれる対象goodか欲求不満を引き起す対象badかどちらかであるとしか見えな。しかもgoodもbadも現実ではないどころも幼児期の健全な精神発達過程に失敗したゆえの空想の人間関係なのである。

さてまた『シンデレラ』というアメリカの精神分析学者は『白雪姫』と七人の小人の『シンデレラ』を挙げて、見捨てられることに対する防衛として生じる分裂についての寓話として説明している。

『シンデレラ』を例に挙げ、『シンデレラ』を追ひつゝ、

『シンデレラ』の父は再婚の後、1年間の旅行に出る。父親の不在は体裁よくこまかされてくる。つまり、彼女は自分が継母と仲良くなれるようにこの父の配慮と、合理化自分が不安にならないように後から屁理屈をつけて納得してゆく。

そして、彼女は自分をやさしい心の他には何もしてこませなかったと善人としており、自分そして誰でも持っている悪の感情は分裂機制により継母や姉たちに投影している。だから徹底的にこめられるのだ。

彼女のよい母親像は産みの母の死にすぎた『シンデレラ』に保存されることになる。『シンデレラ』の見捨てられ状態は義理の姉たちの警戒な生活状況と対照的であり、義理の

姉たちは継母のよい母親の対象であり、『シンデレラ』は継母の悪い母親の対象となっている。

『シンデレラ』の見捨てられ状態は姉たちがパーティーに行くのを見る時に、トクに達する。ここで『シンデレラ』は、よい母親から大事にされ愛されているという空想の象徴である。彼女を作り出す。そして王子が救済空想を満たすところで物語は終わる。

早期幼児期には全ての人間が対象分裂と言つ防衛機制を使うのだらう。だから、この寓話が今まで綿々と受け継がれてきたのに違いない。ドラマチックなやり方で見捨てられることと、それに対する防衛機制が描かれているからだ。

しかし、このように他人を とxで区別するやり方を、大人になっても使っていると、病的な人間ということになってくる。さらに自分の嫌いな相手が誰かと会話している姿を見るだけで、自分の悪口を言っているのではないかと感じてしまうようであれば、赤信号である。

